

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.84 - 2015年12月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



総長は
宣教師志望の手紙を待っている



ここで、“すべての人へ、生涯をかけて”遣わされるために呼ばれていると感じる人々に、その呼びかけを受け入れるようにと、私の招きを新たにします。適切な時に、ふさわしい識別を行うことができるようにするためです。私は、会員、たいいていの場合若い会員から手紙を受け取っています。彼らは宣教師になりたいと望んでいるが、長上（時には院長、時には管区長）が否定的であったり、行ってはいけないと言われてたり、許可してくれないと書いています。

ドン・ボスコの心で見るとき、主が呼びかけて召し出される道に、誰も障害物を置いてはならない、そして支部あるいは管区における困難が、これらの寛大な望みに影響を及ぼすべきではないと言えるのではないかと思います。兄弟の皆さん、決して忘れないようにしましょう、主は私たちよりもはるかに寛大な方です。

最後に付け加えたいと思います。時は熟しており、宣教のニーズもそのように私たちに教えています。ですから、連携して働き、総長の承知の上、地域顧問と宣教顧問を通して、決まった期間に一時的な形で、より多くの召命のある管区の会員の助けを会のほかのところや管区に提供できるでしょう。親愛なる管区長の皆さん、寛大であってください。ドン・ボスコは並外れて寛大でした。

(総長書簡「ドン・ボスコ生誕200周年の五つの実り」最高評議会報421)

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父, SDB

「準備はできていますか？」

ドン・ボスコ生誕200周年は終わりました。親愛なる(若い)兄弟会員、ドン・ボスコにプレゼントを上げるのを忘れていませんか: すべての人へ ad gentes、自分の国を後にして ad exteros、生涯をかけて ad vitam 宣教に出かけるようにという呼びかけに応えるというプレゼントを! 今度、クリスマスを祝う日々が、「私はここにおります!」と伝える手紙を、とうとうドン・ボスコの後継者にあてて書く良い機会になるかもしれません。あなたのために祈ります! 私のために祈ってください!

「識別の結果、宣教の分野で仕えるように呼ばれているという結論に達したなら、候補者は総長に手紙を送ります。その手紙で自分の望みを表明し、会の必要に応える所存であることを伝えます。このことは、本人にとって望ましい、あるいは特定の宣教地に具体的に向いていると伝える機会を排除するものではありません。それは特にプロジェクト・ヨーロッパについて言えることです。(……)

識別を順調に完了し、宣教地のために会員を手放すという管区長の意見を得た上で、総長は候補者を派遣先に任命します。」

(『ドン・ボスコのサレジオ会員の宣教のための養成』, ローマ, 2013年)

宣教師顧問
ギジェルモ・バサニェス神父



わたしたちの平和、キリスト
暴力に苦しむこの世界に
平和をお与えください!
クリスマスの喜びが皆様の上にありますように!



サレジオ会宣教師召命

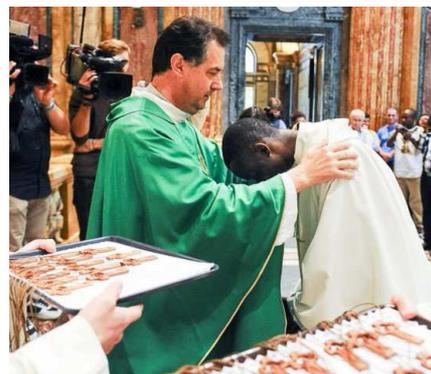
“AD GENTES, AD EXTEROS, AD VITAM”の識別の規範

召命識別のための**一般的規範**-会員および院長と支部評議会のため

3つの本質的側面:(1) **正しい意向**、(2) **自由な選択**、(3) **必要な資質**。

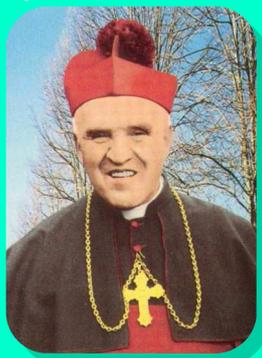
必要な資質とは次のものです:

- ◆ **健康**
- ◆ **人間的成熟**、責任感、人間関係を築く力。
- ◆ しっかりとした人柄、**心理的にバランスが取れていること**、困難にあっても堅忍できること。
- ◆ 忍耐、理解、謙遜、**他の文化や宗教の本物の価値を評価できる力量**、変化する状況に適応できること。
- ◆ **超自然に開かれた精神**。宣教の働きを単なる博愛的、あるいは社会な活動に過ぎないものとしてとらえることがないように。
- ◆ **信仰の精神**。個人また共同体の祈りの生活を通してキリストに根ざすこと、聖体を中心にする、滞ることなく秘跡を受けること。
- ◆ **宣教の情熱**をもって生きられるサレジオ会員としての生活。その情熱は、**イエスを**、特に貧しく疎外された**若者に知らせたいという熱意**に表れます。
- ◆ **教会と会への深い愛**。
- ◆ **犠牲の精神**。惜しめない広い心。与えられた条件で満足すること。
- ◆ 疲れや自分の働きに契りが無いことに耐える**剛毅**。
- ◆ 多文化の共同体に**適応**し、その生活を愛する**柔軟性、能力**。
- ◆ **新たな言語を習得する力**。
- ◆ **共同体で共に暮らし**、共同体のメンバー、使命を共にするパートナーである信徒・協働者、若者らと**チームになって共に働ける**こと。
- ◆ 総合的司牧活動のうちに、地元の司教との**交わりと従順**を生きること。



宣教師召命に**反するしるし**

- ◆ **冒険を求めること**、ただ働く場を変えたいという望み。
- ◆ **第三者**: 両親、会員、友人などに**促されて**。
- ◆ 人間関係や個人的な問題、召命の**問題からの逃避**。
- ◆ **共同体の生活や使徒職に適応できないこと**。そのような会員が宣教地に送られれば、より厳しい環境にさらされることになり(言葉、文化、その他の要因のため)、状況は改善するより、むしろ悪化するでしょう。
(『ドン・ボスコのサレジオ会員の宣教のための養成』)



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエル・ルイジ・カメローニ**神父

インドで働く宣教師、扶助者聖母宣教師姉妹会創立者、神の僕**ステファノ・フェッランド**司教(1885-1978)は、戦いの前線で管区長に書き送っています:「真夜中の数分前、クリスマス前です! 私は目覚めて番をしています。この夜に、どうして眠れましょう?……まもなく、イエスがお生まれになります。イエスは宮殿で、玉座にお生まれになることもできましたが、ベツレヘムの飼い葉桶を好まれました。ですから、このみずぼらしいテントもさげすまれることはないでしょう。幼子に、私は何をお話ししましょう。彼はすべてをごらんになり、尽きることのない悲惨のただ中で、決して彼を見捨てたくないと願う、少なくとも一つの誠意ある心を見いだすでしょう。最近の苦闘や戦いに勝利する力をくださるよう、彼に願うつもりです。」



サレジオ会の宣教の意向

地中海地域における家庭司牧の強化のために

サレジオ会が、青少年司牧との緊密な協力のうちに家庭司牧を強化できますように。

今日、「家庭は、他の共同体や社会的きずなと同様、文化上の深刻な危機に直面しています。家庭の場合、社会の基本的な細胞であり、このきずなのもろさがとくに深刻になります。家庭は、違いのある一人ひとりがともに住むこと、お互いに帰属し合うものであることを学ぶ場であり、親から子へと信仰が伝えられる場でもあります。」(『福音の喜び』66) すべての人のいのちの中心、ゆりかごである家庭のために祈らなければなりません。家庭は、私たちの司牧的取り組みにますます関わるものとなっているからです。

